

## Contents

■特集 地域医療	2～5P
■健診（検診）結果	6P
■国保、医療ネットワークなど	7P
■市政の動き、年金、日曜窓口	8P
■交通災害共済、ごみ	9P
■ほっとにゆ～す	10、11P
■宅地売却、市長コラム	12P
■就学援助制度、ゆカードなど	13P
■多文化共生、公共交通	14P
■水道、軽自動車	15P
■各種講座	16P
■ながはまの文化財	17P
■インフォメーション	18、19P
■裏表紙 ながはま百景、SMILE	20P

## 今月の表紙

### 長浜CHOCO JAM

2月16日(土)、一夜限りのバレンタインホール(長浜文芸会館)において、バレンタインコンサート「長浜CHOCO JAM」が開催されました。表紙写真は、長浜北高校写真部の皆さんによる作品です。

音楽を通じたまちづくりをしようと、まちと音楽を愛する市民団体「長浜音活協議会」が中心になって企画したこのイベント。

舞台装飾デザイン、舞台進行資料作成、来場客誘導ポスターの作成、当日の写真撮影など、準備や当日の裏方支援には、地元高校生も参加するなど、市民が随所に携わったイベントとなりました。

当日は、小さいお子さんを持つ親子連れから、若いカップル、そして熟年世代まで幅広い年齢層の180組が、熱いライブに酔いました。



北高写真部の皆さん(左から三輪さん、横幕さん、中川さん、飯田さん、奥野さん)と一緒に撮影してくれた県立大の植松さん

# 人を診る

## 診療所の若き医師の奮闘

体調を崩したり、慢性疾患を抱えているのに、近くにお医者さんがいない状態は、とても不安なものです。

しかし、それはドラマやドキュメンタリーで取り上げられる離島などの事柄であって、「自分には関係ない」と思っていないませんか？

実は長浜市にも、民間の医療機関がない地域があります。

そういった地域で、住民の命を預かり、日夜奮闘しているのが国民健康保険直営診療所の先生です。

昨年4月に西浅井地域の塩津診療所に着任された樋元先生にお話を伺いました

### 初めての診療所勤務

「滋賀県から派遣されて、この塩津診療所に着任しました。大学卒業後、香川県立中央病院で2年間の臨床経験はあるものの、周りに他の医師がいた病院での勤務とは異なり、診療所では一人なので、本当に自分のできるのか不安がありました。」

先生が勤務する塩津診療所は、一日に40人程の患者が来院する。その多くは高齢者だ。患者の中には来院が困難な人もいて、診療所での診察を終えると、往診に出向く。それは以前の病院では経験しなかったこと。

「初めての経験もいろいろとさせていただいています。ここは温かい人が多い。皆さんが親しくしてくれて、楽しく働いています。」

### ここでの仕事

「目の前の患者さんを一所懸命診ることを心がけています。患者さんが抱えている苦しみを取り除いたり、和らげることが私の仕事です。」

高血圧や糖尿病などの生活習慣病や、腰や膝に痛みを持つ患

者が多い塩津診療所。ほとんどの場合、診療所で治療を完結しているが、そうでない場合ももちろんある。

「ここで治療ができない場合は、より専門的な治療が受けられる病院を紹介します。診療所と病院との連携はよりよい医療の提供に不可欠です。診療所の設備はある程度整っていますが、できない検査もあります。例えば血液検査。これは別の機関に依頼しています。結果が出るまでに時間がかかり、そのことで患者さんに負担をかけることがあります。もどかしいです。」

### 診療所の課題

診療所の役割は、総合診療を提供することだと言いきる樋元

先生。ここでは内科全般、皮膚科、整形外科、耳鼻科なども診療する。

「全ての病気を診ようと思っ

ていますが、判断に迷う事もありません。自分で対応できない時は専門医を紹介します。」

「隣にある永原診療所の西川先生と協力・連携を取りながら、診療所がうまく機能するようにしています。でも、お互いに患者さんを抱えているので、長期間、診療所を留守にすることはできません。医師が一人しかいない診療所の課題です。」

工夫しながら、時間をつくり



樋元 主税 (ひもと ちから) 先生

昭和61年3月6日生まれ 26歳

平成22年3月 自治医科大学医学部 卒業

平成22年4月～平成24年3月

香川県立中央病院勤務

平成24年4月～ 塩津診療所所長